川波だより

第 14 号
令和5年 12 月1日
(2023年)

編集・発行
島田高等学校同窓会
〒427-0038
島田市稲荷 1-7-1　修己館内

同窓会事務局
TEL・FAX 0547-21-1145
メールアドレス
kawanami@ab.thn.ne.jp
ホームページ
http://shimada-hsdosokai.org
学校事務室
TEL 0547-37-2188
FAX 0547-35-1744

同窓生　23,603 名
在校生　548 名

「令和５年」

会長
大久保 節夫
（21回生）

皆さんこんにちは。お元気に過ごされているでしょうか。長い間私達を苦しめて来たコロナウイルス感染症も未だに終息する気配はありませんが、GW明けに感染症法上５類への移行により、行動制限もなく自由に動ける社会に戻りました。そしてこの間に、生活様式、価値観等時代は大きく変わったのではないでしょうか。効率的な生産性の高い合理的な社会に向かい始めたと思います。

経済界に於いても急ピッチで自己変革・改革改善が求められています。新しい社会を生き抜くためにどうしても通り抜けなければならない変化の時と思います。

また自然環境に於いても、現在９月の下旬でありますが、連日30度を越える猛暑続きであり、日本だけでなく世界中で大洪水、山火事が多発しております。温暖化が益々進み人口減少と共に大変気になる処です。

政治面に於いても、ロシアのウクライナ侵攻も依然として厳しい状況下にありますが、その他の地域でも紛争が絶えない非常に不安定な国際情勢ではないでしょうか。我々の力ではどうすることも出来ませんが現実を理解し認識して行く事が大切であると思います。

そんな中でスポーツ界は非常に頑張っているのではないでしょうか。侍ジャパンのWBC優勝、陸上のやり投げ、バスケットボールのパリオリンピック出場、サッカーのドイツ戦勝利、ラグビー等、多くの感動・夢を与えてくれています。日本人の潜在的な力「粘る力」「チームワークの力」「信じる力」を国内外に発信できたと思います。

島田高校校舎が老朽化し改修工事に入っています。新しい校舎の完成と共に再度「われらはこぞる島田高校…競い立つ」。頑張って行きたいですねー。この「川波だより」を読まれる頃は令和５年がどんな一年だったか？来年、令和６年はどんな年になるのか見えてくるのではないでしょうか。

「真理のひかりさしくるところ」

校長
後藤 昇太

同窓生の皆様には釈迦に説法ではありますが、今から遡ること100年近く前の大正８年、島田実科高等女子校として始まる本校は、島田高等女学校、島田高等女学校へと校名を変更し、昭和23年に県立島田高等学校として現在に至っています。

志太榛原地区だけでなく、県内でも有数な歴史と伝統を持つ本校は、これまでに２万３千人を超える卒業生を輩出し、様々な分野で地元のみならず、全国そして世界で活躍しています。

「連山若き希望に映えて　知性の道は開けたり」で始まる校歌には本校の校訓である「希望・友情・努力」の言葉があります。

そして、その校訓の言葉には次のような思いが込められています。

「希望」すなわち、高い志を持ち、自ら学び、未来を展望する人となること。
「友情」すなわち、互いに研鑽し、他者を敬愛する人となること。
「努力」すなわち、自分を磨き、夢や目標に挑戦する人となること。

混沌とした先の見えない時代が、私たちの前には広がっていますが、こんな時代だからこそ、島田高校の校訓の希望・友情・努力という言葉に込められたメッセージがこの先の未来を生きていく指針となるはずです。

かけがえのない高校時代を過ごす生徒たちにふさわしいステージとなるように、教職員一同、同窓会の皆様のお力を借りて、島田高校の魅力を高めていきたいと思っております。

校舎改修のお知らせ

現在、校舎の老朽化対応・耐震補強の工事中です。グランドの仮設校舎にて授業をしています。校舎の改修は令和７年３月まで、令和７年４月より改修後の校舎での生活となります。

改修箇所

①トイレの乾式化及び洋式化 ②全室照明のLED化 ③空調設備の更新 ④理科室実験台の更新 ⑤図書館渡り廊下屋根の塗装 ⑥天体ドーム撤去及び屋上の防水修繕

～コロナ後　仮校舎での生活～

５月に新型コロナウイルスが５類に引き下げられ、学校でもマスクを外す生徒が増えてきました。秋口になった現在は、コロナウイルスに加え、インフルエンザの罹患も増えてきたため、再びマスクをする生徒が増えています。

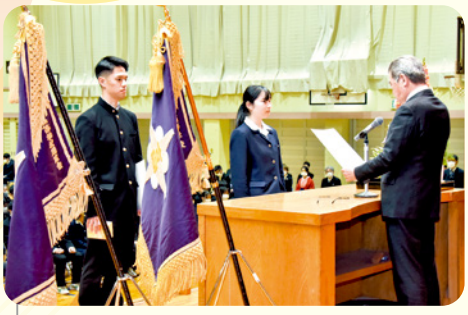
夏休みに引越しが終了し、２学期からは仮設校舎での生活が始まりました。仮設校舎とはいえ、壁や床、トイレには清潔感があり、生徒、職員の評判は上々です。

仮設校舎では、校舎全体でWifiの利用ができるようになり、１・２年生は持参したiPad（貸出用もあり）を教育活動で使用できるようになりました。カラーの資料や映像を見ることができたり、デジタル資料にデジタルペンでそのまま書き込みしたりできます。

手にした生徒達は、スタイリッシュで画面も見やすくて使いやすいと評判はまずまずです。iPadなら高校卒業後も、そのまま有効活用ができるので、大切に使ってもらえたらと思います。

開かれた、集いやすい、活動する同窓会

同窓会の活動



同窓会入会式

令和５年２月27日

同窓会長・副会長が出席。第75回生156名が入会し、同窓会長が12名を学年委員に任命。

川波賞授与　令和５年２月28日

在校中の功績を讃え、卒業式終了後２名に授与
同窓会長より賞状と記念品が手渡された

川波賞 受賞者(75回生:令和５年３月卒)

五十嵐 陽	●全国高等学校総合体育大会　スキー競技大会出場（R2・R3年度） ●第77回国民体育大会　冬季大会出場（R3年度）
北村 陽奈	●第69回NHK杯全国放送コンテスト　朗読の部　大会出場（R4年度）

「川波賞」とは　島高在学三年間に、学業・部活動・学校教育活動において優れた功績のあった生徒に対し、その活動を讃え、卒業時に賞状の授与と記念品を贈呈。（学校創立90周年を機に創設）

六月祭報告

５月27日(土)、今年も六月祭（文化祭）が開催されました。今年はコロナの５類への移行を受け、久しぶりに制限のない六月祭となりました。

来場された同窓生の皆様も、クラス展示や、文化部や有志による文化発表など、生徒たちの一生懸命に取り組む姿に、若かりし日の自分を映した方も多かったのではないでしょうか。

そして今年は、なんと！４年ぶりに同窓会主催の写真展『100年のあゆみ』も開催されました。今回は場所を修己館から校舎1階の会議室に移し、同窓会役員一同、前日の準備と当日の運営に汗を流しました。「100周年の写真展」やコロナ禍の卒業アルバムから写真を抜粋し、パネル20枚に展示を行いました。

同窓生35人をはじめ、一般入場者、在校生も含め、合計267人の来場があり、大盛況となりました。従来の飲食サービスは控え、今年は飴玉のサービスを行いました。飴を舐めながら、懐かしの写真を見入る姿に、写真展の開催が今年の六月祭のテーマ『笑顔万歳　はじけろ星瞬』の一助になれたことを信じてやみません。

来年の六月祭も盛大に開催されることを祈って、今後も同窓会活動に取り組んでいきますので、皆様よろしくお願いいたします。

森川利久（39回生）

決算・予算

【収入の部】　（単位：円）

科　目	R4年度決算	R5年度予算
入会金・終身会費	2,805,000	2,340,000
川波だより協力金	555,301	500,000
繰越金	254,201	666,936
雑収入	3,074	64
合　計	3,617,576	3,507,000

【支出の部】

科　目	R4年度決算	R5年度予算
事業費	1,035,547	1,270,000
同窓生親睦事業費	10,220	105,000
川波だより費	320,337	350,000
後援事業費	0	50,000
在校生支援費	704,990	765,000
経常費	771,847	819,000
会務費	3,046	21,000
慶弔費	0	50,000
通信費	86,432	90,000
事務費	617,451	578,000
HP管理費	22,220	30,000
雑費	42,698	50,000
積立費	1,000,000	1,000,000
予備費	143,246	418,000
支出合計	2,950,640	3,507,000
次年度繰越	666,936	0
合　計	3,617,576	3,507,000

令和５年度 同窓会事業

総会・役員会
- 総会（中止、理事にて決議）
- 理事会　４月から隔月開催（年度内６回）

同窓生の交流・親睦の促進
- 「六月祭」参加（写真展）
- 「島高同窓生の集い」（中止）
- 学年同窓会開催支援

学校・在校生支援
- 奨学金の給付
- 部活動奨励金の給付
- 「川波賞」授与
- 卒業証書ホルダー寄贈

広報活動
- 「川波だより」発行
- 「川波だより入会記念号」発行
- ホームページ・Facebook

社会・文化活動の後援
- 同窓生講話（12月21日予定）
- コンサート・展覧会等の後援ほか

《 同窓会からのお知らせ 》

「島高同窓生の集い」の開催

2020(R2)年度から開催を見合わせていましたが、来年度は５年ぶりに開催を予定しています。延期となっていた「０の付く回生」から順次開催していく予定です。

10・20・30・40・50・60・70回生の皆さまには、改めてご案内をいたします。

学年同窓会開催支援金について

学年同窓会を開催する学年に対し、補助金として一万円を支援します。申請書をご提出いただき、開催後に会のご報告をいただきます。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

住所変更等のご連絡

住所・氏名の変更、また、ご友人様の変更をご存知の場合は、お手数ですが事務局までお知らせ下さい。

「川波だより」郵送について

「川波だより」はご希望の方に、送料無料でお送りしています。ホームページからもご覧いただけます。郵送を取りやめたい方は、事務局までご連絡下さい。

ホームページ

島高のいま

得られたものを受験に活かしたい

全国大会出場

放送部　堀内　梨花（三年）

私は朗読部門なので大会に向けて何ヶ月も前から課題の本を読み、自分のいちばん合った場所を大会でできるように探し、練習の際は外部の講師の方に教わり悔いの残らないように練習をしました。全国大会が決まった際はすぐに実感がわかなかったのですが練習した成果を最後の大会で発揮することが出来たことが嬉しかったです。放送部での練習は声出しや、自分の読むところを誰かに聞いてもらい良くなかった所を直すように繰り返し練習しました。聞いてもらうことで自分では気づけなかった点を知れた為、より良いものにできたと思います。

大会では自分とは違う表現の仕方、場面の切り取り方など様々なものを聞くことで様々な表現の仕方があるということを実感しました。また他の部門を見ることができ嬉しかったです。

大会を終えて活動や他にも日々の取り組みなど得られたものがとても大きいと思います。部活動を通して得た力をこれからは受験勉強に活かし、志望校合格へと繋げていきたいです。

表現に自らの思いを持てる成長

全国大会出場

放送部　瀧　汐里（二年）

大会に向けては週4回の部活動の中で、日々の練習をコツコツと積み重ねました。講師の先生にも御指導いただき、練習の中で着実にレベルを上げることができました。地区予選で2位で通過した時から、「全国も夢じゃないかも…」という期待はもちろん、高い順位で通過したことへのプレッシャーや不安も感じつつ、県大会本番まで日々の練習を重ねていました。だからこそ、全国大会出場が決まった時は嬉しさと共にほっと胸を撫で下ろすことができました。

放送部での活動を通して、「伝える」ということにとても敏感になったと感じています。今まで意識してこなかった「声での表現」について、自分なりの想いを持つようになったことが成長だと思います。

全国大会は地区予選や県大会とは雰囲気がまるで違いました。ピリピリした緊張感の中での発表でしたが、練習の成果を出しきれました。全国レベルの発表を生で聞くことができる、とても貴重な経験をさせていただいたことを嬉しく思います。県から全国へと視野が広がり、活動へのモチベーションが上がりました。この経験を実力へと変えていけるよう努力したいと思っています。今後はまずは11月に控えている新人戦へ向けて、原稿作りや発声練習に励みたいと思っています。3年生が部活を引退し、2年生が主体となっての初めての県大会なので不安や緊張もありますが、自分自身の成長のために今やれることを精一杯頑張ります。

瀧 汐里さん　堀内 梨花さん

日々の目標に向かって集中

全国大会出場

新体操　小川　琴羽（一年）

今年の全国高等学校総合体育大会新体操大会に出場しました。大会に向け、日々の練習では動きの正確性や美しさを磨くとともに、体力、筋力、柔軟性を維持、向上させるためのトレーニングに取り組んできました。日々の取り組みの中で具体的な目標を設定し、それに向かって集中力を高めることができました。目標を達成するために取り組むことで精神的な成長も感じることができました。

インターハイは各県の代表がそれぞれ集まる大会ですので、独特の雰囲気に大変緊張しました。試技順もいちばん最後だったため、最後まで集中力を切らさないことを心がけました。

全国大会では、毎日の努力が実り、大きなミスなく11位で終わることができたことにほっとしてます。まだまだ完璧な演技ではなかったので、新たな目標ができました。さらなる成長を追求していきたいと思います。

今の目標は、全日本新体操選手権に出場することです。これからも日々の練習に励み目標を達成できるよう頑張っていきたいです。

ノーミスの演技を目指す

東海大会出場

新体操　倉嶋　りいな（二年）

新体操は、個人だと、1分30秒で演技を評価されます。このたった1回の演技で順位が決まるので、私は本番でいい1本が出せるように、ノーミスで踊れるようにたくさん練習してきました。絶対に東海に出場するって気持ちで県大会に臨んだので、出場が決まった時は、安心しました。私は、今までミスが出ると、その後もミスが続いてしまうけど、日々の練習で、ミスをしても、その後落ち着いて演技が出来るようになりました。

県大会は、納得のいく演技が出来なかったけど、東海大会は、県大会より良い演技が出来たので良かったです。また、世界でも活躍してる選手と一緒に試合することが出来て、良い刺激になり、勉強になりました。今後は身体難度の点数を上げられるようにしたいです。

小川 琴羽さん　倉嶋 りいなさん

成長感じた精神力

全国大会出場

クロスカントリースキー　青木　颯汰（二年）

全国大会に向けて、僕は高1（出場時は1年）だから上級生に負けてもいい、と思わず、上位を目指して日々のトレーニングや、長野などに遠征しての雪上練習など大切に行いました。合宿中も周りの選手に流されず、自分のペースで誰よりも練習しようと頑張ってきました。

全国大会が決まった時は嬉しかった半面、けがをしてしまい良いタイムが取れなかったので、不安な気持ちになりました。

スキーを通して成長できたと感じるところは、レース中の精神力です。高校生は10キロ走るため、とても長く、とても苦しいです。レース終盤になると辛くて力尽きそうになります。しかし、長年スキーをやり続けて、つらい時こそ頑張ろうとあきらめずに最後までねばる、という力がついたと思います。

全国大会を終えて、インターハイも国体も自分で納得がいく結果を残すことができました。雪国の選手は練習量も多く、知識も深く、かなわないところもありますが、大会を通して学ぶことはたくさんあります。静岡でもできるトレーニングを頑張ったり、練習を通して技術学び、どんなコースでも天候でも雪質でも力を出せるように努力していきたいと思います。

青木 颯汰さん

東海大会への出場

東海大会出場

卓球部　杉本　大知（二年）

私は得意なフォアを活かすために、サーブから三球目に来たボールに対してフォアで打ち、五球目もフォアで打ち返す練習をたくさんやりました。継続力の大切さを感じ、もっと努力して強くなりたいと思いました。

卓球部　三枝　純子（二年）

私は、課題であるバックドライブ、鋭いツッツキの練習を中心に一球一球を大切に取り組んできました。大会では、身体的にも精神的にも厳しい場面が多く何度も諦めそうになりましたが、東海大会への出場が決まってとても嬉しかったです。

三枝 純子さん　杉本 大知さん

令和４年度卒業生（令和５年３月卒業）進路状況

区　分	四年制大学		短期大学		専門学校等	就職		進学準備	合計
	国公立	私立	国公立	私立		公務員	一般		
合格数	35	375	4	7	16	0	0		437
進学数	34	93	4	2	15	0	0	8	156

令和５年度入試では、国公立大学の合格者が延35名となり、卒業生156名に対して22.4％でした。国公立大学では静岡大学４名、静岡県立大学４名、静岡文化芸術大学５名をはじめ、愛知教育大学、横浜市立大学などにも合格しました。私立大学では立教大学や中央大学、法政大学、同志社大学などの難関大学にも合格しました。

今年度は昨年度まで行っていた河合塾講師による合同補講（３年生対象）を特別補講とし、島田高校で実施（川根高校も参加）しました。また、全国16大学の先生方をお招きして講義を受ける「しまこう学問探究ナビ」（１、２年生対象）もすべての講座で大学の先生に来校いただき、対面で実施することができました。大学見学も１、２年生実施するなど、コロナ禍以前の状況に戻りつつあり、生徒が大学の学びに触れる機会を増やすことができました。（進路課）

お元気な大先輩

わが青春の川波 今昔

神代 醇一 さん
（9回生 85歳）

同級生S君へ

「その頃は？これからどうする？」

印象深い世事は、人工衛星打ち上げ、第五福竜丸、力道山、プレスリー、三島由紀夫等枚挙に暇がない。「連山若き・・」時折、校歌をくちずさむ。と、いくつかの思い出が蘇るねえ。これも、まだ、「海馬」が活躍している証拠かな。新居弁天での海洋合宿、富士登山、市内を走る寒稽古にも参加した。

早朝、英語の補習に情熱を注いでくれたS先生には、未だに、感謝している。『学習塾』は無い時代だったよね。ラジオの「受験講座」は自己決定の道を開いてくれたとも思うよ。その頃、君とは、進路に係る「情報」をよく交換したものだ。

「それからどうした？」

君は、東京へ、私は、地元へ。教職の道を選んで三十八年。その間、島田一中へは、十四年、再勤務も含めてね。多くの生徒が、島高へ進学したことを前にも伝えましたね。

「今はどうしている？」

退職後は、県人権啓発センター、島田市社会福祉協議会等に務めた後、「島田市地域医療を支援する会」を仲間と立ち上げ、『医療・介護の適切な利用』を主目標に、島田市民が『安心して暮らせる医療・介護の環境づくり』に少しでも寄与するため、市民活動を継続して十五年になるかなあ。

「フレイル・ロコモシンドローム」にならないよう、週二、三回シニア仲間と卓球を続けているよ。

校歌三番「われら、栄えあり、この郷土」常に、意識しつつ、母校の更なる発展を期待しようね。

医療講演会の様子

学年同窓会

五年ぶりの再会

21回生　森　秀樹

還暦後、２年毎に開催してきた同期会も、５年間中断していましたが、久し振りの開催となりました。何人出席するか、幹事一同気をもんでいましたが、56人が元気な顔で集まりました。初めて、藤枝駅南の「ホテルオーレ」で行いましたが、会場へのアクセスが良く、料理も、会場の雰囲気も素晴らしくて、満足する会となりました。

例年行っていた余興は一切行わず、ひたすら、「飲んで、食べて、歓談」する、という会にしましたが、途中から、各テーブルを駆け回る人で、会場はとても賑やかになりました。

最後に、校歌を斉唱し、その後、21回生のテーマソングとなった「サライ」を、肩を組んで合唱し、２時間半の宴会時間があっという間に過ぎていきました。

そして、次の再会を約束して各々二次会へと繰り出していきました。

21回生同期会　令和５年９月16日　於 ホテルオーレ

二十七回生「タイムスリップ」

27回生　大畑　健実

「懐かしいねえ」「変わってないねえ」と受付に入ってきた瞬間から大騒ぎです。会話も笑顔も高校時代にタイムスリップです。七年ぶり、通算四回目の同窓会です。宮美殿を会場に七十八名の同窓生の２時間半は、アッという間のタイムスリップです。思い出の曲ベストテンでは、懐かしの曲一位の「神田川」を全員が口ずさみ、気分は高校生です。「三年後の古希の年に会おうね」と言いながら現実世界に戻っていきました。

27回生同窓会　令和５年９月23日　於 宮美殿

編集後記

今年度の六月祭参加、来年度の集い開催と、同窓会の事業も少しずつ復活しています。また、同窓会を開催する学年も増えています。

明るいニュースをお届けできることを、大変嬉しく思います。